

憲法改正「2段階構え」

表題と写真は、朝日新聞 2月27日である。まずはリードから。「自民党は26日、昨年の衆院選後初めて党憲法改正推進本部の会合を開き、改憲へ再始動した。まずは、各党の理解を得やすいとみる緊急事態条項や環境権などで改正の前例を作り、その後、9条改正などをめざす『2段階』戦略が鮮明になった。今後は、来夏の参院選後の国会発議をめざし、改正項目を絞り込む方針だが、ハードルも高い。」

2段階戦略を取るのには二つの理由がある。一つは、憲法改正を発議するのに衆参両院で「3分の2」という多数派をつくらなくてはならないという現実だ。もう一つの理由は、世論対策だ。自民党の憲法改正推進本部事務局長の磯崎陽輔首相補佐官は21日、「憲法改正を国民に1回味わってもらおう。『そんなに怖いものではない』となったら、2回目以降は難しいことを少しやっついこうと思う」と述べた。これが本音だろう。一度改正をすることで、世論が「改憲慣れ」し、前文や9条の改正につながることを期待する。

一方、「急がば回れ」の2段階戦略の先には、首相の持論である憲法前文や9条の改正をめざす方針が明確に浮かび上がる。磯崎氏が示した資料では、12年の党憲法改正草案のうち、9条は「戦力不保持と交戦権否認を定めた2項を削除し、新たに国防軍を保持」、前文は「全面削除」、天皇は「元首であることを明確化」など25項目に「特に重要」として丸印が付けられていた。

まさに「改正ありきの本末転倒」(朝日新聞2月6日社説)であり、こんな「2段階構え」に騙されてはならない。それにしても憲法改悪に向け、「なりふり構わぬ」姿勢で執拗に迫ってくる安倍政権にどう対抗するか。対する側も正念場を迎えている。

(2015年3月7日)

